

## CTC(血中循環腫瘍細胞)検査

微小流路デバイス(Microfluidic Chip)法

### 専用採血管「Cell-Free DNA BCT<sup>®</sup>」の保管方法および採血時の注意事項

※CTC 検査専用採血管 Streck 社「Cell-Free DNA BCT<sup>®</sup>」は、ご希望の検体数分を弊社より事前にお送りいたします。

※採血管の蓋は、どの時点においても絶対に開けないでください。

#### ◆ ご使用前の保管 → 冷蔵

ご使用前の採血管は冷蔵にて保管してください。CTC 検査専用採血管「Cell-Free DNA BCT<sup>®</sup>」は2～30℃までの温度内で保管するよう定められております。この温度以外で保管した場合、有効期限が2週間程度まで大幅に減少しますのでご注意ください。

一般の冷蔵庫内であれば概ね5～10℃ですので、安定して保管できます。

#### ◆ 採血直前 → 常温に戻す

採血前は、採血管を冷蔵温度から常温（15～30℃）に戻す必要があります。

通常は10分程度、室温に置いていただく程度で十分です。

採血直前は、採血管が常温に戻ったことを必ず確認の上、採血してください。

※冷暖房の前、直射日光、車中など、想定外の温度変化にはくれぐれもご注意ください。

#### ◆ 採血時

- ・空腹時に採血してください。
- ・真空採血のガイドラインに従い採血してください。
- ・採血後すぐに、10回の転倒混和を必ず実施してください。
- ・採血管ラベルに氏名を必ず記入してください。
- ・採血量は原則10mlですが、最低8.5ml以上は必ず確保してください。8.5ml未満の場合、細胞分解によりmicrochip流路が目詰まりし計測に影響が出るため、くれぐれもご注意ください。



Streck の文字より少し上の辺りが  
およそ10mlの目安になります

#### ◆ 採血後の保管 → 常温を保つ

採血後の採血管は引き続き常温にて保管してください。冷蔵および冷凍保管は禁止です。がん細胞は、常温以外の高温および低温いずれにおいても非常に影響を受けやすいため、採血時から弊社への検体到着時まで、15～30℃の常温を一定に保つことが非常に重要となります。梱包・発送方法も同様に重要となりますので、こちらについては別紙「梱包・発送方法」を必ずご確認ください。

ご不明な点がございましたら下記連絡先までお問合せください。

<連絡先>

株式会社日本遺伝子研究所 CTC ラボ

〒983-00013 宮城県仙台市宮城野区中野 1-5-28

TEL:022-388-9741 FAX:022-388-9740 E-mail:ctc-lab@nrgl.co.jp